

エキゾチックアニマル I

(授業概要)

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、ペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	生命科学科	教員	細見
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

前期

エキゾチックの概要およびペットの現状、外来種問題、エキゾチックアニマルが置かれている環境について理解する。エキゾチックアニマルを扱う職業について、説明ができる。

兎形目、齧歯類の特性や飼育時の注意点、病気や症状などを理解し、動物との接し方も習得する。

後期

イタチ科、鳥類それぞれ動物の特性を理解する。飼育時の注意点、病気や症状などを理解し、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

授業計画

前期

- 1回 自己紹介
- 2回 動物との接し方、飼育者としての心得
- 2回 エキゾチックアニマルとは、エキゾチックアニマルが置かれている現状
- 3回 外来種問題について
- 4回 齧歯類について（分類、歴史）
- 5回 齧歯類について（体の特徴）
- 6回 ハムスターについて（分類、歴史、）
- 5回 ハムスターについて（体の特徴）
- 6回 ハムスターについて（飼育方法、病気）
- 7回 モルモットについて（分類、歴史）
- 8回 モルモットについて（体の特徴）
- 9回 モルモットについて（飼育方法、病気）
- 10回 試験範囲発表
- 11回 前期末試験
- 12回 期末試験返し・解答
- 13回 エキゾチックアニマルに携わる職業（前期まとめ）
- 14回 ウサギについて（分類・歴史）
- 15回 ウサギについて（体の特徴）

- 16回 ウサギについて（飼育方法）
 17回 ウサギについて（病気）
 18回 イタチ科について（分類、歴史）
 19回 イタチ科について（体の特徴）
 20回 イタチ科について（飼育方法、病気）
 21回 鳥類について（分類、歴史）
 22回 鳥類について（分類、歴史）
 23回 鳥類について（体の特徴）
 24回 鳥類について（体の特徴）
 25回 鳥類について（飼育方法）
 26回 鳥類について（病気）
 27回 猛禽類について（分類、歴史）
 28回 猛禽類について（分類、歴史）
 29回 猛禽類について（体の特徴）
 30回 猛禽類について（体の特徴）
 31回 後期試験
 32回 後期試験返却
 33回 後期まとめ
 34回 1年総復習 （グループワーク：グループ分けし、課題を与えてプレゼン）
 35回 1年総復習

じゅぎょう ほうほう
 授業の方法

講義

きょうざい
 教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル、動画

ひょうか ほうほう
 評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
 期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
 授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自まとめなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
 実務経験と授業科目の関係

あり

海洋生物学

(授業概要)

海洋・河川・汽水域に生息する生物の分類・形態を学び、解剖と観察を通して理解を深める。実習を通して、地元の大阪湾・住吉川の自然の調査と観察を通して実体験から理解を深める。この学習を通して得た知識は、小学校の体験学習をサポートする形で解説を行う実習を行う、水族館・アクアショップのスタッフは、動物を扱いますが解説を行いゲストに対する対応が仕事です。そのための実践になります。

科	生命科学科	教員	白井芳弘
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×3時間

目標

1学期

魚類の観察と解剖を通して、体の作りと機能を理解する。この知識を飼育に応用する。
海岸の環境を学んだ後に実際に海岸生物の観察を行い理解を深める。
生物の分類階級と所属する生物について学び、分類群ごとの特徴を理解する。
刺胞動物の特徴を学習し、イソギンチャクの顕微鏡観察を行い刺胞の形態を確認し写真撮影を行う。

2学期

学校が立地する地元の自然を観察し学び、地域の小学校の自然観察のサポートを行い、水族館の教育活動を実践する。

授業計画

1学期

- 1回 年間の授業の進め方、魚類の形態と内部構造の機能と名称を学ぶ
- 2回 実習：魚類の形態観察（マアジの観察と解剖）を行う
- 3回 実習：魚類の形態観察（マサバの観察と解剖）の振り返り
- 4回 潮間帯の構造と潮汐現象を知る
- 5回 野外実習：海岸の磯環境にて海岸生物の観察を行う
- 6回 実習の振り返り、写真とデータから、環境を理解するキーワードを探る
- 7回 分類階級と生物名（界・門の名称と特徴、そこに属する生物を学ぶ）
- 8回 イソギンチャクの刺胞の観察・生物顕微鏡を使い刺胞の写真撮影を行う
- 9回 海綿動物の特徴・浮遊有機物とは
- 10回 軟体動物門の特徴と分類・二枚貝綱の特徴
- 11回 アサリの呼吸と偽糞の観察
- 12回 二枚貝の役割・青潮の発生と干潟の役割
- 13回 鰓足綱の特徴
- 14回 実習で観察した磯の生物の分類・整理（課題）

- 15回 試験範囲の解説
- 16回 前期試験
- 17回 試験問題の解説
- 2学期**
- 18回 野外実習（住吉川河口にて汽水域の生物観察と小学校授業サポートの準備）
- 19回 野外実習（小学校3年生 住吉川観察会のサポート）
- 20回 観察会の反省と対応の検討を行い次回に備える
- 21回 節足動物門の特徴、カニの体の名称・呼吸・摂餌
- 22回 エビの体の名称
- 23回 頭足綱の特徴
- 24回 スルメイカの解剖と観察①
- 25回 スルメイカの解剖と観察②
- 26回 解剖実習のふりかえり、まとめ
- 27回 棘皮動物門の特都庁特徴と属する綱
- 28回 ヒトデの観察
- 29回 ナマコの解剖と観察
- 30回 ウニの観察
- 31回 ウニの生活史・ナマコの食性・食物連鎖
- 32回 試験範囲の解説
- 33回 後期試験
- 34回 試験問題の解説
- 35回 総復習（課題）

授業の方法

講義（対面授業・遠隔授業）・実習（生物の解剖・顕微鏡観察）・校外実習（海岸と河口にて観察・教育活動）

教材

適宜印刷物を配布、海辺の生き物図鑑（千葉県立中央博物館分館海の博物館）、飼育ハンドブック No.3

評価の方法

期末試験80%、授業態度（実習・実験レポート）20%

授業外での学習方法

実習前に目的方法を再確認、実習後に結果をノートにまとめる。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物学習心理学（AQR 対象）

（授業概要）

特に日本においては水族館・動物園などにおける、科学的、客観的な新人の教育プログラムが殆ど充実されておらず、旧態全とした徒弟性が実行されていたり、あやまった精神論が横行していたりしている。このため新人も飼育経験年数がある程度ある者でも、動物飼育者としての成長段階があることが認識されず、各段階に到達するための具体的な目標が持てずにいる。本授業ではまず業界にプロとして参入して最初の3～4年の間に獲得しなければならない、そして運用できなければならない後術とその背景となる理論について学ぶ。

端的に言えば初級～中級までのジュニア・トレーナーが獲得し、運用せねばならないのはオペラント条件付けにおける正の強化（動物の特定の行動に対する生起頻度や動機水準を、報酬を与えることで高く保つ）と、正の強化の原理を全うするために必要なブリッジ（レスポナント条件付けにおける条件刺激）と、トラブル・シューティング・問題対処法としてのLRSとタイムアウトである。

同時に学生たちには学ぶ態度と具体的目的と達成すべき目標を持てるよう指導していく。その中で“No”と言える飼育者・トレーナーになり、自分の考えや意見を明確にし、相手にそれを正しく伝えられるような人間になってもらいたい。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	AQR	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×1 コマ

目標

前期はハズバンドリーの概念・目的を正しく認識し、① ハズバンドリーとハズバンドリー行動の違いを正しく述べられるようになる。② 正の強化（報酬を与える事）の機能と目的、なぜブリッジ（条件刺激）が必要か、多様なブリッジを使いこなすことの重要性を必要十分な範囲で述べられるようになる。後期は① LRS とタイムアウトの目的とやり方を述べられるようになる。② 動物の行動マネジメントでは、動物の自主性を尊重し、動機水準を高く保つこと、そして予測が大事であることを理解し、そのうえでなぜ脱感作が重要になるかを述べられるようになる。明確な論理でものごとを説明し、相手に伝えられるようになる。自分の考えや意見をはっきりと言え、物事に常に疑問と興味を持つようになる。

授業計画

- 1回 オリエンテーション（授業の組み立て、進め方などの説明）。
- 2回 ノリス、リッジウェイ、大隅、粕谷先生たちについて。人間力とは何か
- 3回 アニマル・ファーストとは。動物飼育に関わる人間の責任。義務とは。
- 4回 水族館の4つの機能。動物医療の現状と行政。
- 5回 対面授業 ハズバンドリーとは。調餌の仕方。 衛生管理、栄養管理、動物医療。
- 6回 対面授業 新しいテクノロジーの活用。トレーナーの毎日（動画）
- 7回 動物との絆とは。適応としての情動。

- 8回 強化とは、生得性と学習性の違い。
- 9回 ブリッジの性質と機能。正の強化子と報酬の関係、選好テストについて。
- 10回 無条件刺激と無条件反応とは何か。条件反応と強化。
- 11回 サインは弁別性刺激（未来）、ブリッジは条件刺激（過去）であること。
- 12回 三項随伴性とは何か。メンテナンス・トレーニングとは。
- 13回 ブリッジの確立。学習と行動の変容。
- 14回 連続強化と間欠強化。強化の基準とトレーナーの一貫性。
- 15回 不定率強化と動機水準。強化
- 16回 動物の自主性の尊重。選択の自由とは。
- 17回 前期のまとめと試験対策
- 18回 前期試験。
- 19回 前期試験の返却と正答解説
- 20回 3種類の問題行動。動物の心の病。
- 21回 ローレル・ブライトマンのプレゼンテーション（動画）。精神薬とは。
- 22回 罰を使えない理由。オペラント条件付けの半分は使えないこと。
- 23回 LRSの意味と使い方。
- 24回 動物に反応しないことの重要性。タイムアウトの意味と使い方。
- 25回 嫌悪刺激に対する脱感作には3種類ある。予防としての脱感作。
- 26回 脱感作のやり方。
- 27回 ドバイのペンギンのトレーニング(動画)と動物の行動生態。
- 28回 強化の基準とポイント、行動の分解。
- 29回 ターゲットの種類と使い方。
- 30回 ステップ・バイ・ステップの考え方。
- 31回 動物の行動マネージメントにおける予測性と非予測性。
- 32回 なぜ、動物の行動マネージメントに「やり直し」「呼び戻し」は使えないか。
- 33回 試験前対策
- 34回 後期試験
- 35回 試験返却、正答解説

授業の方法

基本的に毎月2回は対面授業で、それ以外はオンデマンド形式の授業で行う。講義中心。

教材

特に無いが、。そのほか随時、必用に応じて学生に紹介する。

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

毎回の授業中にとったメモを基に、良く分からなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめノートを作成する。授業において指定された動画を Google で検索し視聴する。

実務経験と授業科目の関係

あり：専門は比較認知学、行動生態学、海洋哺乳類学、動物の行動マネジメント。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所および同大学海洋生物研究所・海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではザトウクジラ生態とハンドウイルカの認知機能の研究に携わり、後者では海洋哺乳類の知覚能力の実験研究と健康管理に携わる。日本では沖縄海洋研究所、あわしまマリンパークの飼育顧問を務め、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会会員。

アニマルアクティビティ

(授業概要)

アニマルセラピーやアニマルアクティビティの現状とセラピードッグの育成に関する適性飼育と必要な条件を学び、ボランティアや教育、介護などで活躍できる人材の育成を行う。

科	生命科学科	教員	荻野 直美
コース	AQR	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1学期

アニマルセラピーを通じて、ペット動物に対する意識の向上

動物介在活動の普及・ボランティアの育成

2学期

動物介在活動の実践と動物を飼い暮らすことの大切さと難しさを伝えられるようになる。

(動物の適性飼育の重要性)

授業計画

- 1回 自己紹介、アニマルセラピーとは
- 2回 AAA・AAT・AAE 概要
- 3回 AAT を行うためには
- 4回 動物がもたらす効果
- 5回 AAT を行う側からの分類①
- 6回 AAT を行う側からの分類②
- 7回 AAT を受ける側からの分類
- 8回 AAT を行う上での動物のストレス①
- 9回 AAT を行う上での動物のストレス②
- 10回 動物の適性評価①
- 11回 動物の適性評価②
- 12回 活動中のストレス要因
- 13回 患者に合った動物を選ぶ
- 14回 AAT の適応に注意が必要な場合
- 15回 動物への不適切な扱い
- 16回 捨てず・増やさず・飼うなら一生①
- 17回 捨てず・増やさず・飼うなら一生②
- 18回 テスト (筆記)

- 19回 テスト（解答）前期まとめ
- 20回 グループワーク
- 21回 活動に参加する動物のチェック
- 22回 活動に際しての注意点
- 23回 活動当日の注意点 デモンストレーション
- 24回 ボランティアの責任
- 25回 施設と設定
- 26回 動物を飼う「食事編」
- 27回 動物を飼う「環境編」
- 28回 動物を飼う「体の手入れ編」
- 29回 動物を飼う「運動編」
- 30回 動物を飼う「予防編」
- 31回 動物を飼う「トレーニング編」
- 32回 動物を飼う「愛情・絆編」
- 33回 後期ノートチェック、テスト範囲まとめ
- 34回 テスト（筆記）
- 35回 テスト（解答）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習、グループワーク

きょうざい
教材

ノートプリント配布 1～23、その他環境省の配布ポスター

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

けいけん じゅぎょうかもく かんけい
経験と授業科目の関係

あり

海洋生物飼育環境管理学

(授業概要)

魚介類を中心に、飼育意義や繁殖、成長および飼育環境について事例を取り上げながら解説する。また、魚介類の行動特性や認知機能、倫理的側面についても講述する。これにより水族館やアクアショップ、水産業で働くうえで重要な魚介類の科学的な飼育管理を理解することができる。

科	生命科学科	教員	谷 洋平
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

水族の生理・生態を理解したうえで飼育管理ができるようになる。

水族の飼育意義を考えた上で、仕事としての飼育管理ができるようになる。

2 学期

水族の一般的な感覚機能や認知機能について述べるができるようになる。

科学的な知見および倫理観のもと、水族を適切に扱うことができるようになる。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介, アイスブレイク, 講義について,
- 2回 日本人と水族の関わり
- 3回 飼育の意義 (食べるための飼育) ①
- 4回 飼育の意義 (食べるための飼育) ②
- 5回 飼育の意義 (守るための飼育) ①
- 6回 飼育の意義 (守るための飼育) ②
- 7回 飼育の意義 (守るための飼育) ③
- 8回 飼育の意義 (守るための飼育) ④
- 9回 飼育の意義 (癒しのための飼育)
- 10回 飼育の意義 (研究のための飼育)
- 11回 現行の水槽内飼育の改善点
- 12回 現行の水槽内飼育について意見交換
- 13回 現行の水槽内飼育について改善案提出
- 14回 水族館での飼育について
- 15回 夏の生物飼育について

2 学期

- 16回 夏休みの飼育管理方法の振り返り
- 17回 保護・保全のための飼育（ベルーガの繁殖、イルカの人口尾びれ）
- 18回 鑑賞のための飼育（アニマルセラピーの概要とアクアリウムの効果）
- 19回 コミュニケーション能力（魚類）
- 20回 コミュニケーション能力（その他の海洋動物）
- 21回 海洋生物の感覚機能①
- 22回 海洋生物の感覚機能②
- 23回 海洋生物の感覚機能③
- 24回 魚類の記憶・学習能力
- 25回 魚類の社会構造（群れ）
- 26回 魚介類における福祉（動物福祉とは）（海洋生物における福祉の現状）
- 27回 飼育の現状把握①
- 28回 飼育の現状について討論
- 29回 飼育改善実践①
- 30回 飼育改善実践②
- 31回 福祉を考慮した飼育方法（環境エンリッチメントを応用した魚類飼育）①
- 32回 福祉を考慮した飼育方法（環境エンリッチメントを応用した魚類飼育）②
- 33回 試験対策
- 34回 試験
- 35回 試験フィードバック / 総括

授業の方法

講義、問題演習、実習

教材

飼育ハンドブック水族館編

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

本講義で学習した内容を役立てるために、実践・観察を自主的に自身の水槽管理で実行し、対象種の生態に基づく飼育改善案を飼育ノートにまとめる。

実務経験と授業科目の関係

水族館飼育員として魚類及び海獣類の飼育に携わる。

アクアリウム用品学Ⅰ

(授業概要)

水族館やアクアリウムショップなどの施設において水槽管理をする上で使用する機材、また道具の基本的な使用方法を学習する。

科	生命科学科	教員	竹内
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

水槽管理で最も重要なろ過システムを中心に学習し、ろ過（水の循環システム）について理解し、担当水槽において適切に使用できるようにする。

2 学期

担当している水槽に使用されている機材のメンテナンスを正確に行えるようにする。

日々の管理で使用する餌の種類を理解する。

授業計画

1 学期

- 1回 海水魚飼育・淡水魚飼育におけるアクアリウム用品の違い
- 2回 水槽素材別特徴について①
- 3回 水槽素材別特徴について② 水槽台とは
- 4回 ろ過機材について①（上部フィルター）
- 5回 ろ過機材について②（外部フィルター）
- 6回 ろ過機材について③（底面フィルター・外掛けフィルター）
- 7回 ろ過機材について④（投げ込み式フィルター・その他）
- 8回 ろ過機材について⑤（オーバーフロー式）
- 9回 ろ過機材について（メンテナンス方法）
- 10回 ろ過機材について（実践）
- 11回 水質検査器について
- 12回 照明器具について①（蛍光灯）
- 13回 照明器具について②（LED）
- 14回 照明器具について③（メタルハライドランプ）
- 15回 照明器具について④（メンテナンス方法）
- 16回 照明器具について（実践）

2 学期

- 17回 前期総まとめ
 18回 前期試験
 19回 試験返却
 20回 餌について①（人工餌）
 21回 餌について②（乾燥餌）
 22回 餌について③（冷凍餌）
 23回 餌について④（生き餌）
 24回 水温管理において（ヒーター）
 25回 水温管理において（クーラー、ファン等）
 26回 各機材のメンテナンスについて
 27回 担当水槽 機材メンテナンス①（実践）
 28回 担当水槽 機材メンテナンス②（実践）
 29回 水中ポンプについて
 30回 エアレーションの使用方法和意義
 31回 ろ過バクテリアについて①
 32回 ろ過バクテリアについて②
 33回 後期総まとめ
 34回 試験
 35回 試験返し

じゅぎょう ほうほう
 授業の方法

講義、実演、実習

きょうざい
 教材

なし

ひょうか ほうほう
 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%。

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
 授業外での学習方法

担当水槽においての通常メンテナンス。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
 実務経験と授業科目の関係

ペットショップでのアクアコーナー部門長の経験（販売、接客、生体管理等）。

人間形成概論

(授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。心身ともに健康な生活を送るために必要なヘルスリテラシーを身につける。

か科	生命科学科、動物看護学科	きょういん 教員	校長：中野美和子
コース	DGT, TEP, SML, AQR, WLD, VN1	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35単位

目標

1 学期

人間の身体と心の関係、人間関係の基本である自己概念について考える。次いで、対人認知に関わる理論と実際を学び、考える。

2 学期

基礎的なコミュニケーションの概略を学び、次いで集団での行動、心理について学び、集団の一員として働き方、コーチングを含めた成人教育について学び、考える。

健康についてのリテラシー、生活習慣病の予防について学び、職場でのストレスへの対処力を身につけ、健康で有意義な人生を送る一助とする。

授業計画

1 学期

- 1回 アイスブレイクを兼ねた講師の自己紹介、人間の身体と心の関係
- 2回 自律神経とストレスの関係、自律神経の整え方
- 3回 自己認識・評価、リフレーミング
- 4回 自分を大事にする、self-compassion
- 5回 自尊感情 (self-esteem)、自己主張 assertive
- 6回 対人感受性、心の理論、
- 7回 印象形成、対人認知とその歪み
- 8～10回 対人認知の歪み：ステレオタイプ、偏見、透明性錯覚、現状維持バイアスなど
- 11回 試験対策、
- 12回 試験、あるいはレポート、
- 13回 試験のフィードバック

2 学期

- 14～15回 コミュニケーションの概略、不適切表現
- 16回 内集団、内集団ひいき、集団圧力、同調、傍観者効果
- 17回 集団、集団浅慮、集団心理～群集心理、社会的手抜き

- 18~19回 リーダーシップ、チームで仕事をするについて
- 20~22回 成人教育、コーチングとフォローアップ
- 23回 ヘルスリテラシー、日本人の寿命と主な死因の現況、日本の健康政策
- 24~28回 生活習慣病の概要とその予防：がん、循環器疾患・高血圧、糖尿病・脂質異常、COPD
- 29回 飲酒、依存症、歯科疾患の概況と予防、
- 30~31回 睡眠、疲労、メンタルヘルス
- 32回 試験対策、
- 33回 試験、レポート、
- 34回 試験、レポートのフィードバック
- 35回 感情処理、ストレス、ストレス対処

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義、問題についてのレポートと討論、グループワーク

きょうざい 教材

適切な教科書がないため、試験対策時に講義内容をまとめたプリントを配布する。

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験・レポート提出 90%、じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

自分自身の経験を考察するレポートを書く。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

あり

コンピューター実習

(授業概要)

動物に関わる全ての職業に共通したPCスキル（タッチタイピング、Word 基礎、Excel 基礎、PowerPoint 基礎を学びレポート作成及び表計算の基礎と応用）を修得できる。

科	生命科学科	教員	伊藤
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

1 学期

- ・ Word の基本操作に慣れ、自身で文章作成、レポート・報告書作成が出来るようになる。
- ・ タイピング技術を高めホームポジションを覚える。

2 学期

- ・ Excel の基本操作に慣れ、表の作成、初歩的な関数、グラフ作成、データ管理の基礎を身につける。
- ・ PowerPoint の基本操作に慣れ、簡易的なプレゼン資料の作成と発表が出来るようになる。
- ・ タイピング技術を高め、タッチタイピングが出来るようになる。

授業計画

- 1 回 オリエンテーション(授業目標、PC 室の使用法、自己紹介など)。
- 2 回 PC スキルチェックテストの実施。クラウドとローカル両方での保存領域確保。
- 3 回 PC 基本操作説明。タイピングスキル確認。Google スプレッドシートによる情報共有説明。
- 4 回 【Word】 概要説明。アプリ起動方法と画面構成の説明。文章作成及び保存と提出方法の説明。
- 5 回 【Word】 文書作成(日付、挨拶文挿入、フォント変更など)に必要なスキルを習得する。
- 6 回 【Word】 文書作成演習。習得したスキルの習熟度を上げるため、練習問題の実施。
- 7 回 【Word】 グラフィック機能(ワードアート・画像の挿入、文字の効果設定など)を理解する。
- 8 回 【Word】 グラフィック機能演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 9 回 【Word】 表のある文書作成(表の作成、レイアウト変更、表の書式設定など)を理解する。
- 10 回 【Word】 表のある文書作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 11 回 【Excel】 概要説明。アプリ起動方法と画面構成の説明。新しいブックの作成、データ入力、オートフィルの使い方などを理解する。
- 12 回 【Excel】 データ入力、オートフィル演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
関数(SUM、AVERAGE)の使い方、絶対参照を理解する。
- 13 回 【Excel】 表の書式設定、行や列の操作、印刷設定について理解する。
- 14 回 【Excel】 表作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 15 回 【Excel】 表作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 16 回 前期期末試験対策

- 17回 前期期末試験
- 18回 前期期末試験答案返却&解説
- 19回 【Excel】グラフ作成(グラフ機能概要、円グラフ、縦棒グラフなど)を理解する。
- 20回 【Excel】グラフ作成演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 21回 【Excel】データ分析(データベース機能概要、テーブル変換、抽出方法など)を理解する。
- 22回 【Excel】データ分析演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 23回 【Excel】データ分析演習。理解度を高めるため、練習問題の実施。
- 24回 【Excel】アプリ間データ共有の仕方を理解する。
- 25回 【PowerPoint】概要説明。アプリ起動方法と画面構成の説明。プレゼンテーションの作成を理解する。
- 26回 【PowerPoint】プレゼンテーションの作成(スライド挿入、箇条書きテキスト入力、構成変更、表の作成など)を理解する。
- 27回 【PowerPoint】画像や図形の挿入、SmartArt グラフィックの作成方法を理解する。
- 28回 【PowerPoint】スライドショーの実行方法を理解する。プレゼン実施時のポイント紹介。
- 29回 【PowerPoint】自己紹介スライドの作成。
- 30回 【PowerPoint】自己紹介演習。作成したスライドを用いてプレゼン練習の実施
- 31回 【PowerPoint】自己紹介演習。作成したスライドを用いてプレゼン練習の実施
- 32回 【PowerPoint】自己紹介演習。作成したスライドを用いてプレゼン練習の実施
- 33回 後期期末試験対策
- 34回 後期期末試験
- 35回 後期期末試験答案返却&解説、タッチタイピング検定、全体総括

授業の方法

講義、実演、課題作成

教材

よくわかる Word2016 & Excel2016。

PowerPoint は事前に作成したスライドを使用

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20% (出席率、授業態度等)

授業外での学習方法

課題作成を行い、自身で作成するスキルを向上。知らない知識や単語を調べる。

実務経験と授業科目の関係

あり。

動物関連法規Ⅰ

(授業概要)

狂犬病予防法、動物愛護法を中心に家庭で飼育または動物に関わる仕事に就く上で知っておくべき各種動物に関する法律について学ぶ。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35コマ

目標

1 学期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

2 学期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3回 狂犬病予防法 (1) 狂犬病とは その1
- 4回 狂犬病予防法 (2) 狂犬病とは その2
- 5回 狂犬病予防法 (3) 狂犬病清浄国・地域について
- 6回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その1 法の概要、目的
- 7回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その2 対象動物、輸入禁止動物 (感染症法)
- 8回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10回 動物が亡くなった場合 (1) 動物や動物の死体の法的立場

- 11回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却・解説
- 14回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その1
- 15回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その2
- 16回 動物愛護法（1）法律の成立背景その1
- 17回 動物愛護法（2）法律の成立背景その2
- 18回 動物愛護法（3）目的
- 19回 動物愛護法（4）基本原則
- 20回 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 その1
- 21回 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 その2
- 22回 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 その1
- 23回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その2
- 24回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その1
- 25回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その2
- 26回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その3
- 27回 後期試験
- 28回 後期試験返却、解説
- 29回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その4
- 30回 動物愛護法（13）第2種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 31回 動物愛護法（14）特定動物 その1
- 32回 動物愛護法（15）特定動物 その2
- 33回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 34回 動物愛護法（17）自治体の役割
- 35回 1年総復習

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

テキスト、自作のプリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、平常点 20%（しゅつせきりつ じゅぎょうたいど
期末試験 出席率、授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

ビジネスマナー

(授業概要)

就職する為に必要なスキル(履歴書作成・自己アピール・面接マナー)を学び、実践することで、自信をもって就職活動に取り組むことが出来るようになる。また、就職後に注意すべきマナーや仕事に対する取り組み姿勢について学習することで、社会人として職場に定着するための能力を涵養する。

科	生命科学科	教員	北川
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	
対象年次	1年	年間単位時間	35時間

目標

1 学期

就職活動を行うための基礎知識として、履歴書の作成に必要な自己分析や作文技術に関する演習に取り組むと同時に、面接マナーを学ぶことで、インターンシップや就職選考に取り組むための基盤を形づくる。

2 学期

自主的に業界研究や企業研究を行えるようになる。さらに、履歴書作成に取り組み、実際の就職活動に用いる書類の雛形を作成する。

基本的なビジネスマナーや服装について、演習を通じて把握し、企業選考あるいはインターンシップ先で模範的な専門学生としてふるまえるようになる。

授業計画

1 学期

- 1回 授業の進行について
- 2回 挨拶とお辞儀
- 3回 ビジネスで用いる言葉遣いの基礎
- 4回 電話とメールの基本マナー
- 5回 書類の郵送等に係る諸手続き
- 6回 お礼状やあいさつ文、送付状の作成
- 7回 企業訪問時の所作
- 8回 ビジネス・就活に挑む服装
- 9回 インターンシップ参加の準備①
- 10回 インターンシップ参加の準備②
- 11回 履歴書の作成技術①
- 12回 履歴書の作成技術②
- 13回 期末試験
- 14回 試験返却

2 学期

- 15回 前期の振り返り
- 16回 業界・企業研究の基礎
- 17回 自己分析①_自己の経験を振り返る
- 18回 自己分析②_自己アピール要素の整理
- 19回 自己分析③_志望業界へ向けたアプローチを考える
- 20回 自己分析④_キャリアプランを考える
- 21回 履歴書作成のための演習_テーマ作文の作成①
- 22回 履歴書作成のための演習_テーマ作文の作成②
- 23回 履歴書作成のための演習_コラム作成①
- 24回 履歴書作成のための演習_コラム作成②
- 25回 履歴書作成のための演習_コラム作成③
- 26回 履歴書作成のための演習_文章の構成を整える①
- 27回 履歴書作成のための演習_文章の構成を整える②
- 28回 履歴書作成のための演習_文章の構成を整える③
- 29回 履歴書作成のための演習_自己アピールの推敲
- 30回 履歴書作成のための演習_①
- 31回 履歴書作成のための演習_②
- 32回 求人情報へのアプローチ
- 33回 期末試験
- 34回 試験返却
- 35回 年間の振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、室内演習

きょうざい
教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

じゅぎょうが い がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

気持ちの良い挨拶、傾聴の姿勢、丁寧な言葉づかいを意識して日々の生活を送る。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

マリン実習

(授業概要)

アクアスペシャリストコースが目指す飼育員、またガイドやトレーナーについて基本的な職業理解をする。実習に向けて実習活動への取り組み方や心構えを理解する。また、魚類の生理学、生態学の面から、解説し、学んだ内容を実際に実習室内の水槽にて実践する。飼育に必要な機材の使用方法や機能的な役割、自然環境との繋がりを通して飼育理論について講述する。

科	生命科学科	教員	北川・竹内凌
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×3時間

目標

1学期

チームワーク力を身につけ、校外学習に向けた団体行動など協調性を身につける。

2学期

自主性のある行動を行なえるようになる。学内以外の実習や就職活動時に自分で考え、自分で行動する。

水槽のメンテナンス及びトラブル処理が出来るようになる。

就職活動への意識を持ち、将来の進路を決定する。

授業計画

1学期

- 1回 アイスブレイク,
- 2回 他己紹介
- 3回 年間イベントについての確認
- 4回 インターンシップ実習の手続き
- 5回 研修旅行での動き方やマナーについて
- 6回 研修旅行前学習①
- 7回 研修旅行前学習②
- 8回 水槽管理グループの編成について
- 9回 水族館のテーマ別比較
- 10回 水族館のテーマ別比較のまとめ
- 11回 グループワーク演習/HR
- 12回 1学期ふりかえり
- 13回 期末試験
- 14回 試験フィードバック
- 15回 夏休みフィードバック/夏休み後の目標設定 (課題)

2学期

- 16回 グループワーク・展示物の企画と実行①
 17回 グループワーク・展示物の企画と実行②
 18回 グループワーク・展示物の企画と実行③
 19回 グループワーク・展示物の企画と実行④
 20回 グループワーク・展示物に対するフィードバック
 21回 地下水族館設備の確認
 22回 水槽メンテナンス演習①
 23回 水槽メンテナンス演習②
 24回 水槽メンテナンス演習③
 25回 飼育会議/研修旅行前学習③
 26回 飼育会議/研修旅行前学習④
 27回 飼育会議/ 研修旅行フィードバック
 28回 飼育会議/解説演習①
 29回 飼育会議/解説演習②
 30回 飼育会議/解説演習③
 31回 飼育会議/水槽メンテナンス演習④
 32回 飼育会議/水槽メンテナンス演習⑤
 33回 期末試験
 34回 試験フィードバック
 35回 1年間総まとめ（次年度へ向けた課題）

授業の方法

講義、問題演習、実演、グループワーク、プレゼン、作業実習

教材

魚学入門、飼育ハンドブック水族館編

評価の方法

期末試験80%（筆記試験 or レポート試験）、授業態度20%

授業外での学習方法

自身の水槽管理において授業内容を踏まえた観察・飼育を行い、日々の飼育ノートを作成する。

実務経験と授業科目の関係

北川：大学・独法研究員、建設コンサルタント 竹内凌：アクアショップ店員

魚類生理生態学 I

(授業概要) いわゆる「魚類」に含まれる円口類、軟骨魚類、硬骨魚類、について、水族館やアクアショップでの「飼育管理」ならびに「お客様への説明」に求められる生理・生態・形態的特徴の基本を理解する。また、環境に応答した魚類の生理的变化を理解した上で魚類の飼育に取り組むことができる。

科	生命科学科	教員	北川
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35時間

目標

1学期 ①魚類がどのような「分類群」に分けられているのかを説明することができる。②魚類に共通した「形態的特徴」を説明することができる。③魚類の「飼育管理にその対象種の生理的・形態的機能を関連付ける」ことができる

2学期 ①魚類に共通した「生理的特徴」を説明することができる。②魚類の「飼育管理にその対象種の生理的・形態的機能を関連付ける」ことができる。③環境の変化が魚類の飼育に与える影響を理解し、「環境汚染が大きな問題」であることを意識できる。④水族館職員やアクアショップ店員に必要な、「他者に魚類の生理機能についての解説」が円滑にできる

授業計画

1学期

- 1回 オリエンテーション・アンケート
- 2回 動物の生理的特徴/構造①
- 3回 動物の生理的特徴/構造②
- 4回 動物の生理的特徴/構造③
- 5回 動物の生理的特徴/構造④
- 6回 動物の生理的特徴/構造⑤
- 7回 動物の生理的特徴/構造⑥
- 8回 動物の生理的特徴/構造⑦
- 9回 魚類の呼吸①
- 10回 魚類の呼吸②
- 11回 動物のコミュニケーション・擬態①
- 12回 動物のコミュニケーション・擬態②
- 13回 期末試験
- 14回 試験返却
- 15回 リクエスト授業 (アンケートによる)

2学期

- 16回 前期の振り返り

- 17回 魚類の分類と系統の概要①
- 18回 魚類の分類と系統の概要②
- 19回 分類群別に見た魚類の特性①
- 20回 分類群別に見た魚類の特性②
- 21回 骨格と機能①
- 22回 骨格と機能②
- 23回 形態に見られる環境適応
- 24回 回遊
- 25回 浸透圧調整
- 26回 魚病の発生
- 27回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み①
- 28回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み②
- 29回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み③
- 30回 演習_課題発表①
- 31回 演習_課題発表②
- 32回 期末試験
- 33回 試験返却
- 34回 年間のふりかえり
- 35回 リクエスト授業 (アンケートによる)

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義、演習

きょうざい 教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう 評価の方法

期末試験 80% (後期においては課題発表評価を試験点に含む)、授業態度・出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

大学研究員、独立行政法人研究員、建設コンサルタントとして、淡水魚類を中心とした人工繁殖技術および水圏環境の保護・生態調査に関する研究・業務に従事

基礎生物学

(授業概要)

高校の生物の復習を基本に、身近な生物や人体について、より深く実感を持って理解する。

科	生命科学科	教員	黒川 花
コース	ドッグスペシャリストコース スモールアニマルコース アクアスペシャリストコース ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期…細胞と遺伝の法則、主な臓器等について理解する。

後期…免疫の仕組み、生命の変遷、生物学の基本について学ぶ。

授業計画

1 学期

- 1回 細胞の構造(1)
- 2回 細胞の構造(2)
- 3回 生体を構成する物質
- 4回 タンパク質、酵素
- 5回 動物の組織と器官
- 6回 遺伝子とゲノム
- 7回 遺伝、メンデルの法則(1)
- 8回 遺伝、メンデルの法則(2)
- 9回 いろいろな遺伝
- 10回 ヒトと遺伝
- 11回 恒常性、体液、循環系
- 12回 循環、HB
- 13回 肝臓
- 14回 肝臓、腎臓
- 15回 まとめ
- 16回 前期試験腎臓
- 17回 前期試験返却、答合わせ

後期

- 18回 生体防御(1)
- 19回 生体防御(2)免疫と疾病
- 20回 ホルモン
- 21回 神経と感覚
- 22回 自律神経
- 23回 まとめ
- 24回 46億年(1)
- 25回 46億年(2)
- 26回 自習
- 27回 進化と形態
- 28回 分類
- 29回 学名
- 30回 系統樹。ドメイン
- 31回 原核生物界、原生生物界
- 32回 植物界。菌界
- 33回 動物界
- 34回 後期試験
- 35回 後期試験返却、答合わせ、生きるとは

授業の方法

教材と印刷物配布

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験、80%、授業態度20%

授業外での学習方法

特になし。

実務経験と授業科目の関係

公衆衛生 I

(授業概要)

本来はヒトの健康維持・増進を目的とする学問だが、疾患や環境問題の要因には動物との接触に起因するものも多数存在する。そこで、動物を扱うものとして共生社会を追究すべく、広く公衆衛生に関する知識を習得し、動物に関わる仕事全般に役立てる。

か 科	生命科学科	きょういん 教員	森 聖
コース	アクアスペシャリストコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

1 学期

人獣共通感染症について学び、説明できるようになる。

2 学期

寄生虫疾患と食中毒について学び、説明できるようになる。

授業計画

1 学期

- 1 回 ガイダンス_体の各部位の名称
- 2 回 公衆衛生_看護師教科書 5巻1章より
- 3 回 疫学と疾病予防 -1_看護師教科書 5巻2章より
- 4 回 疫学と疾病予防 -2_看護師教科書 5巻2章より
- 5 回 愛玩動物飼養管理士2級6編2章 愛護・適正飼養関連行政法規 3節 狂犬病予防法
- 6 回 愛玩動物飼養管理士2級6編3章 社会福祉行政・環境衛生法規
- 7 回 愛玩動物飼養管理士2級7編1章 動物の使用管理と関わり合い 1-2節
- 8 回 愛玩動物飼養管理士2級7編1章 動物の使用管理と関わり合い 3-4節
- 9 回 愛玩動物飼養管理士1級6編3章 公衆衛生行政法規1節 感染症法
- 10 回 愛玩動物飼養管理士1級6編3章 公衆衛生行政法規2節 家畜伝染病予防法
- 11 回 愛玩動物飼養管理士1級6編3章 公衆衛生行政法規3-4節 検疫に関する法令、と畜場法
- 12 回 愛玩動物飼養管理士1級9編1章 動物の使用管理と公衆衛生 1章 1-2節
- 13 回 愛玩動物飼養管理士1級9編1章 動物の使用管理と公衆衛生 1章 3-6節
- 14 回 **自主学習（登校不要）_宿題 免疫学**
- 15 回 愛玩動物飼養管理士1級9編1章 動物の使用管理と公衆衛生 2章 1節
- 16 回 前期試験。愛玩動物飼養管理士1級9編1章 動物の使用管理と公衆衛生 2章 2節
人と動物の共通感染症とその対策 -1 ウイルスによる
- 17 回 前期試験 解説。愛玩動物飼養管理士1級9編1章 動物の使用管理と公衆衛生 2章 2

節 人と動物の興津感染症とその対策 -2 細菌による

2 学期

18回 愛玩動物飼養管理士 1級 9編 1章 動物の使用管理と公衆衛生 2章 2節

人と動物の共通感染症とその対策 -3 真菌による

19回 "愛玩動物飼養管理士 1級 9編 1章 動物の使用管理と公衆衛生 2章 2節 人と動物の共通感染症とその対策 -4 寄生虫による

20回 自主学习（登校不要）_宿題

21回 人畜共通感染症 -1_看護師教科書 5巻3章より

22回 人畜共通感染症 -2_看護師教科書 5巻3章より

23回 人畜共通感染症 -3_看護師教科書 5巻3章より

24回 人畜共通感染症 -4_看護師教科書 5巻3章より

25回 人畜共通感染症 -5_看護師教科書 5巻3章より

26回 人畜共通感染症 -6_看護師教科書 5巻3章より

27回 食品衛生 -1_看護師教科書 5巻4章より

28回 食品衛生 -2_看護師教科書 5巻4章より

29回 食品衛生 -3_看護師教科書 5巻4章より

30回 自主学习（登校不要）_宿題

31回 環境衛生 -1_看護師教科書 5巻5章より

32回 環境衛生 -2_看護師教科書 5巻5章より

33回 後期試験。環境衛生 -3_看護師教科書 5巻5章より

34回 後期試験 解説。環境衛生 -4_看護師教科書 5巻5章より

35回 まとめ-1

授業の方法

座学

教材

自作プリント

評価の方法

期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

ノートを纏めなおし、授業前に教員に提示する

実務経験と授業科目の関係

あり

水槽管理概論実習 I

(授業概要)

水槽の管理を行う中で、水生生物が飼育できる仕組みを理解し、知識や技術の習得を目指す。水槽を通して、飼育個体の環境の作成を行い、状況に応じた判断や行動ができる人を目指す。

科	生命科学科	教員	竹内 凌
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	2時間×35

目標

- 1 学期：水生生物を水槽内で飼育できる仕組みを理解し、実際に取り扱うことが出来るようにする。
水生生物の環境を理解することで飼育方法を学ぶ。
- 2 学期：実際に水槽を管理しながら、水質等の状態をコントロールできるようにする。
飼育に使用する、フィルターのメンテナンスや魚病の治療を実施することが出来るようにする。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介, 講義について, 水槽の使い方について
- 2回 水槽について (どんな種類があるのかなど)
- 3回 フィルターについて/濾過槽の仕組み
- 4回 人工海水の作り方/比重計について
- 5回 サイフォンの原理
- 6回 ヒーターとサーモスタットについて
- 7回 餌料について
- 8回 魚のスケッチ、魚名板について
- 9回 ライブロックについて
- 10回 エアーポンプの役割
- 11回 魚病について
- 12回 魚病薬について
- 13回 水質について

2 学期

- 14回 テスト対策
- 15回 試験
- 16回 試験返し、解説

- 17回 管理におけるデータのつけ方について
- 18回 長期休暇の過ごし方について（飼育管理や実習スケジュール）
- 19回 底砂について
- 20回 ライトについて
- 21回 イベント準備/作成物
- 22回 イベント準備/作成物
- 23回 イベントフィードバック
- 24回 サンゴについて
- 25回 周辺器具について
- 26回 コケ 種類と対策
- 27回 水槽管理実習
- 28回 水槽管理実習
- 29回 水槽管理実習
- 30回 水槽管理実習
- 31回 水槽管理実習
- 32回 テスト対策
- 33回 試験
- 34回 期末試験フィードバック
- 35回 1年間まとめ

授業の方法

教室での講義及び地下水槽実習室での実習授業

教材

はじめての熱帯魚飼育

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

日常での飼育管理作業。また、作業を飼育日誌に記録し、異常がないか判断できる状態を目指す。自身の水槽管理において授業内容を踏まえた観察・飼育。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップのアクアコーナー部門長としての勤務経験。飼育生体の管理、用品の使用方法等を授業に取り入れる。

海洋生態学 I

(授業概要)

現在我々の生活は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えている。1 年次は海洋の科学的特徴をメインに授業する。

科	生命科学科	教員	佐崎
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	35

目標

1 学期

環境問題の本質を理解するために、海洋の物理学的な特徴（地形、海水の特徴：塩分など）を理解することを目的とする。

2 学期

環境問題の本質を理解するために、海洋の物理的な特徴（光の環境、水温など）を理解することを目的とする。

授業計画

- 1 回 海洋生態系①（海洋の構造：大洋の割合、水深）
- 2 回 海洋生態系②（太平洋と日本海の特徴）
- 3 回 海洋生態系③（大陸棚：一般的な大陸棚と法的大陸棚の違い）
- 4 回 海洋生態系④（海洋生態系とは生物群集と無機的環境との関係）
- 5 回 海洋生態系⑤（無機的環境：塩分とは%、%について）
- 6 回 海洋生態系⑥（なぜ海水に塩分が含まれているのか①）
- 7 回 海洋生態系⑦（なぜ海水に塩分が含まれているのか②）
- 8 回 海洋生態系⑧（海水の塩分濃度と生命の誕生）
- 9 回 海洋生態系⑨（原核生物と真核生物①）
- 10 回 海洋生態系⑩（原核生物と真核生物②）

- 11回 海洋生態系⑪ (世界の塩分の分布①)
- 12回 海洋生態系⑫ (世界の塩分の分布②)
- 13回 海洋生態系⑬ (塩分‰、%の計算練習 質量%濃度①)
- 14回 海洋生態系⑭ (塩分‰、%の計算練習 質量%濃度、モル濃度②)
- 15回 海洋生態系⑮ (無機的環境：生物の塩分適応①)
- 16回 海洋生態系⑯ (無機的環境：生物の塩分適応②)
- 17回 前期試験
- 18回 前期試験の振り返り
- 19回 海洋生態系⑰ (無機的環境：海洋における日射について)
- 20回 海洋生態系⑱ (無機的環境：有光層とそこに生息する生物群集の特徴)
- 21回 海洋生態系⑲ (無機的環境：無光層とは)
- 22回 海洋生態系⑳ (無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴①)
- 23回 海洋生態系㉑ (無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴②)
- 24回 海洋生態系㉒ (無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴③)
- 25回 海洋生態系㉓ (無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴④)
- 26回 海洋生態系㉔ (無光層に生息する生物の形態学的・生態学的特徴⑤)
- 27回 海洋生態系㉕ (海洋生態系と陸上生態系の温度の違い、比熱)
- 28回 海洋生態系㉖ (水温の鉛直分布①)
- 29回 海洋生態系㉗ (水温の鉛直分布②)
- 30回 温度と生物① (狭温性と適温回遊)
- 31回 温度と生物② (適温回遊)
- 32回 温度と生物③ (奇網とは)
- 33回 温度と生物③ (広温性とは、ベルクマン、アレンの法則①)
- 34回 温度と生物③ (ベルクマン、アレンの法則②)
- 35回 後期試験

授業の方法

本講義では、具体的な例を挙げながら説明する

教材

海洋生態学に関するプリントを配布

評価の方法

きまつしけん 80%、平常点 20% (しゅっせまりつ、じゅぎょうたいど
期末試験 80%、平常点 20% (出席率、授業態度等)

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

本講義で学習した海洋の非生物的環境を水槽管理実習の水槽づくりに意識的に応用すること。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

海洋生態学の調査研究の経験あり

両生爬虫類学 I

(授業概要)

両生類と爬虫類は、世界中に広く分布し、生態学的な役割が重要であり、近年でもペットとして飼われる傾向も上がっている。また、両生爬虫類は経済、医療、社会文化など様々な価値があり、人間との関係性も従来から深く築いている。本授業では、生態学を視座として、両生爬虫類における動物学的特徴、生息地や保全状況などの基礎知識を知り、人間との関係性について理解し、最終的に娯楽として、基礎的な両生類・爬虫類の飼い方を学ぶ。

科	生命科学科	教員	潘之甫
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35時間

目標

1学期

両生類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

両生類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

両生類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

2学期

爬虫類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

爬虫類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

爬虫類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

授業計画

1学期

1回 オリエンテーション、本講義について

2回 両生類の特徴

3回 両生類の分類、多様性 1

4回 両生類の分類、多様性 2

5回 両生類の行動生態

6回 両生類の調査方法

7回 両生類の保全現状

8回 両生類の様々な価値

9回 両生爬虫類の変温特性について

10回 両生類の飼育環境・飼育方法について 1

11回 両生類の飼育環境・飼育方法について 2

12回 爬虫類の特徴 (有鱗目)

- 13回 爬虫類の分類（有鱗目）
14回 爬虫類の多様性（有鱗目）
15回 2学期に向けて
16回 試験対策1
- 2学期**
- 17回 試験対策2
18回 前期試験
19回 試験返却
20回 両生爬虫類の進化について
21回 爬虫類の特徴・分類（カメ目）
22回 爬虫類の多様性（カメ目）
23回 爬虫類の特徴（ワニ目）
24回 爬虫類の分類（ワニ目）
25回 爬虫類の多様性（ワニ目）
26回 爬虫類の調査方法
27回 爬虫類の保全現状、保全にできること
28回 爬虫類の生態系サービスについて
29回 爬虫類の飼育環境・飼育方法（トカゲ・ヘビ）
30回 爬虫類の飼育環境・飼育方法（カメ）
31回 学術文献の調べ方
32回 学術文献のまとめ方
33回 これまでの振り返り、試験対策1
34回 試験対策2
35回 後期試験、試験フィードバック

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習

きょうざい
教材

両生類・爬虫類のふしぎ（サイエンス・アイ新書 84）

Amphibians and reptiles (Naturalists' Handbooks Book 31) (English Edition)

※必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

台湾・台北市立木柵動物園保全研究センターでの実務経験。日本環境教育学会員兼国際交流委員会委員。

潜水士

(授業概要)

国家資格である潜水士は、水中で作業する水族館職員、イルカのトレーナー、ダイビングインストラクター、潜水士、自然の状態を調べる調査会社などでは必須の資格であります。近年では水族館に提出するエントリーシートや履歴書に本資格が記載されていないと受験をすることが出来ません。本資格では、イメージしにくい水圧の影響や高気圧障害などを、具体的な事例や事故などを紹介しながら説明していきます。

科	生命科学科	教員	佐崎
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

1 学期

潜水士の資格取得を目指して学習します。

2 学期

潜水士の資格取得を目指して学習します。9月26日(火)に潜水士の本試験があります。第一目標は9月に合格を目指す。もし難しい場合は、12月12日(火)もしくは本年度の最終に行われる2月14日(水)を目標としましょう。

クラス内の本資格の保有率に関係しますが、有資格者が多くなった時点で、生物分類技能検定3級の対策授業を考えています。

授業計画

- 1回 潜水の範囲と圧力(水圧、絶対圧力、ゲージ圧力)を理解する①
- 2回 潜水の範囲と圧力(水圧、絶対圧力、ゲージ圧力)を理解する②
- 3回 ボイルの法則を理解し、計算することができる。
- 4回 シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。
- 5回 アルキメデスの法則を理解し、計算することができる
- 6回 パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する
- 7回 水中で利用するボンベに充填されている気体(酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど)の性質を理解①

- 8回 水中で利用するボンベに充填されている気体（酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど）の性質を理解②
- 9回 潜水器（硬式潜水、軟式潜水）、潜水方法（トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水）などの特徴を理解する
- 10回 潜水方法（スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水）などの特徴、を理解する①
- 11回 潜水方法（スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水）などの特徴、を理解する②
- 12回 事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する
- 13回 送気系統とは①（逆止弁、調節空気槽、予備空気槽、流量計など）
- 14回 送気系統とは②（逆止弁、調節空気槽、予備空気槽、流量計など）
- 15回 前期試験
- 16回 前期試験の振り返り
- 17回 予備空気槽の計算①
- 18回 予備空気槽の計算②
- 19回 潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。
- 20回 高気圧障害の循環器
- 21回 高気圧障害の呼吸器
- 22回 高気圧障害の神経系
- 23回 水圧が関係する高気圧障害（減圧症、窒素酔い）
- 24回 水圧が関係する高気圧障害（副鼻腔障害、酸素中毒、二酸化炭素中毒）
- 25回 水圧が関係する高気圧障害（一酸化炭素中毒、骨壊死など）
- 26回 心肺蘇生法①
- 27回 心肺蘇生法②
- 28回 潜水に関する関係法令①
- 29回 潜水に関する関係法令②
- 30回 過去問解く①
- 31回 過去問解く②
- 32回 過去問解く③
- 33回 過去問対策①

34回 過去問対策②

35回 後期試験

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

具体的な例を挙げながら講義、過去問を多く解く

きょうざい
教材

潜水士の過去問集

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

出来る限り、過去 5 年分の過去問を解く

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

潜水士資格保有、潜水による生物調査の経験

フィールドワーク概論

(授業概要)

野外で仕事する上で知識や技術を身に着け就職先で応用する。

科	生命科学科	教員	竹内 紘平
コース	アクアスペシャリスト	教員の実務経験	○
対象年次	1年生	年間単位時間	35時間

目標

1学期

天候を見極める力をつける。実際に外で雲の種類を見極めることができる。

2学期

災害時における危険を認識し、日常的に備えることができる。状況に応じた的確な判断ができる。

災害発生時及び事後に進んで他の人々を誘導ができる。

身近にいる野鳥の同定ができる。

授業計画

- 1回 アイスブレイク
- 2回 天気について 1
- 3回 天気について 2
- 4回 雲の種類と特性 1
- 5回 雲の種類と特性 2
- 6回 雲の種類と特性 3
- 7回 空が青く見える理由について
- 8回 フィールドサインについて
- 9回 気圧について
- 10回 気象観測について
- 11回 雷について
- 12回 梅雨について
- 13回 フェーン現象について
- 14回 降水確率について
- 15回 紅葉の仕組みについて
- 16回 ロープワーク
- 17回 テスト対策

- 18回 前期試験期間
- 19回 前期試験期間
- 20回 防災について
- 21回 災害について 1
- 22回 災害について 2
- 23回 災害について 3
- 24回 環境問題について 1
- 25回 環境問題について 2
- 26回 環境問題について 3
- 27回 身近な野鳥 1
- 28回 身近な野鳥 2
- 29回 身近な野鳥 3
- 30回 山での歩き方 1
- 31回 山での歩き方
- 32回 ロープワーク
- 33回 テスト対策
- 34回 後期試験期間
- 35回 後期試験期間

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

図鑑

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験 80%、平常点 20% (しゅつせきりつ 出席率、じゅぎょうたいど 授業態度等)

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

野鳥の同定を行う。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

プール陸上実習

(授業概要、目的)

校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力の維持・向上を行う。また水族館での採用試験項目にもなる、25m タイム測定(18 秒以内)、遠泳(200m)、潜水(25m)の技術指導を行い、合格基準に達する技術を身に付けられるようになる。

科目	生命科学	教員	プール/新田 陸上/竹内
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	70

目標

1 学期

基礎体力の維持・向上ができる。

2 学期

クロール 50m の完泳ができる。

立ち泳ぎができる。

ヘッドアップスイムができる。

潜水 25m の完泳ができる。

授業計画

1 学期

1 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

2 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

3 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

4 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

5 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

6 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

7 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

8 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

9 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

10 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

11 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

12 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

13 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

14 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

15 回 外周、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

16 回 試験

17回 試験解答・解説

18回 外周、筋カトレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン)

2学期

19回 クロールドリル練習

20回 クロールドリル練習

21回 クロールドリル練習

22回 クロールドリル練習

23回 クロールドリル練習

24回 クロールドリル練習

25回 クロールドリル練習、潜水

26回 クロールドリル練習、潜水

27回 クロールドリル練習、潜水

28回 クロールドリル練習、潜水

29回 クロールドリル練習、潜水、タイム測定

30回 クロールドリル練習、潜水、タイム測定

31回 クロールドリル練習、潜水、タイム測定

32回 クロールドリル練習、潜水、タイム測定

33回 クロールドリル練習、潜水、タイム測定

34回 試験

35回 試験解答・解説

授業の方法

実習

教材

なし

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

各自、授業外でのストレッチや補強トレーニング

実務経験と授業科目の関係

竹内/元スキーインストラクター 前田/体育教員免許

アナウンス演習Ⅰ

(授業概要)

水族館やアクアショップに必要となる、接客の際に必要な話し方や立ち振る舞いを身に付ける。

科	生命科学科	教員	細見
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×2コマ

目標

1学期・表現する楽しさを知る。

- ・表情の豊かさを身に付ける。
- ・正しい姿勢で美しく歩けるようになる。
- ・正しい発声ができるようになる。

2学期

- ・発想力を豊かにする。
- ・簡単な生き物解説が出来るようになる。
- ・対面接客が出来るようになる。

授業計画

1学期

- 1回 自己紹介, アイスブレイク, 講義について
- 2回 アイスブレイク ネイチャーゲーム
- 3回 自己紹介 自分を正しく知って、正しく伝える①
- 4回 自己紹介、自分を正しく知って、正しく伝える②
- 5回 身体を使った表現 ～ジェスチャーゲーム～①
- 6回 身体を使った表現 ～ジェスチャーゲーム～②
- 7回 正しい姿勢、歩き方について①
- 8回 正しい姿勢、歩き方について②
- 9回 表情の練習、履歴書写真の撮り方について、
- 10回 表情の練習、喜怒哀楽の表現方法について
- 11回 アニマルショーとは
- 12回 ショー分析①
- 13回 ショー分析②
- 14回 夏休み課題
- 15回 夏休み頑張ったことについて 後期目標 発表①
- 16回 夏休み頑張ったことについて 後期目標 発表②
- 17回 試験1

18回 試験 2

後期

19回 本紹介 準備 1

20回 本紹介 準備 2

21回 本紹介 発表

22回 本紹介 発表

23回 他己紹介 準備

24回 他己紹介 準備

25回 他己紹介 発表 2

26回 ショー分析 3

27回 ショー実践 1

28回 ショー実践 2

29回 ショー実践 3

30回 ショー実践 4

31回 試験準備

32回 試験準備

33回 試験 (発表)

34回 試験 (発表)

35回 試験 (発表)

授業の方法

講義、問題演習、実演、グループワーク、プレゼン

教材

動画、生体、自然物など

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

校外学習にて動物園や水族館に行き、ショーや解説の研究を行う。

実務経験と授業科目の関係

あり。

海洋哺乳類学 I

(授業概要、目的)

野生環境と飼育環境の違いについて触れながら、海棲哺乳類とはどのような生き物がいるのか、どのような生態なのか述べられるようになる。海棲哺乳類の中でも鯨類・鰭脚類の違いを理解できるようにする。

科	生命科学科	教員	細見
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

1 学期

鯨類の分類わけについて理解する。

鯨類の生態について説明することができる。

水族館の飼育業務について説明することができる。

2 学期

鰭脚類の分類わけについて理解する。

鰭脚類の生態について説明することができる。

野性下での海棲哺乳類の生態について説明できるようになる。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介, アイスブレイク, 講義について
- 2回 水族館の海獣類飼育について(飼育)
- 3回 水族館の海獣類飼育について(環境)
- 4回 水族館の海獣類飼育について(調餌、餌)
- 5回 水族館の海獣類飼育について(掃除)
- 6回 水族館の海獣類飼育について(病気)
- 7回 屋内施設・屋外施設について
- 8回 ヒゲクジラ・ハクジラの違いについて
- 9回 ヒゲクジラ・ハクジラの違いについて
- 10回 海棲哺乳類の進化と分類
- 11回 飼育員の基本業務について
- 12回 前期試験
- 13回 ハクジラについて
- 14回 ハクジラについて
- 15回 ハクジラについて
- 16回 前期の振り返り

17回 試験

18回 試験解答・解説

2学期

19回 給餌について・トレーニングの必要性

20回 給餌について・トレーニングの必要性

21回 給餌について・トレーニングの必要性

22回 鯨類の健康管理について

23回 鯨類の健康管理について

24回 鰭脚類の分類について

25回 鰭脚類の分類について

26回 鰭脚類の分類について

27回 鰭脚類の生態について

28回 鰭脚類の生態について

29回 鰭脚類の飼育について

30回 鰭脚類の飼育について

31回 野性下の生態系について

32回 野性下の保全について

33回 試験対策

34回 試験

35回 試験解答・解説

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

なし

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

研修旅行における水族館学習

じつむけいけん と じゅぎょうかもく の かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物園学 I

(授業概要)

動物園の歴史、社会的役割（種の保存、環境教育、調査研究、娯楽）、動物園・水族館の展示手法、動物飼育にあたっての基礎知識（動物福祉、エンリッチメントなど）を理解する

科	生命科学科	教員	花木久実子
コース	アクアスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35

目標

1 学期

西欧と日本の動物園の歴史について学習する 現在の日本の動物園の現状と課題について考える
動物園における種の保存について学習する

2 学期

動物園での飼育係、獣医師の役割について学習する 動物福祉、エンリッチメントについて学習する
動物園での動物管理の方法について学習する

授業計画

1 学期

- 1回 動物園の存在意義
- 2回 動物園の飼育動物
- 3回 西欧の動物園の歴史
- 4回 DVD シェーンブルン動物園（前半）
- 5回 DVD シェーンブルン動物園（後半）
- 6回 日本の動物園の歴史
- 7回 DVD 明日は動物園へ行こう
- 8回 日本の動物園の歴史（王子動物園）
- 9回 動物園の課題
- 10回 動物園の生物学
- 11回 動物園の保全生物学 1（野生動物の現状）
- 12回 動物園の保全生物学 2（個体群管理）
- 13回 生息域内保全と生息域外保全
- 14回 野生復帰へのとりくみ
- 15回 前期総括
- 16回 前期試験
- 17回 試験解答と解説

2 学期

- 18回 野生復帰へのとりくみ2 (DVD パンダ山へ帰る)
- 19回 動物園の飼育施設と飼育管理
- 20回 水族館の歴史と展示
- 21回 DVD フロリダ水族館 (前半)
- 22回 DVD フロリダ水族館 (後半)
- 23回 動物園の獣医
- 24回 動物園の飼育係 1
- 25回 動物園の飼育係 2
- 26回 DVD 沼津市深海水族館
- 27回 個体管理と記録管理
- 28回 動物園の動物福祉
- 29回 動物福祉とエンリッチメント
- 30回 DVD 動物福祉
- 31回 DVD チューリッヒ動物園 (前半)
- 32回 DVD チューリッヒ動物園 (後半)
- 33回 後期総括
- 34回 後期試験
- 35回 試験解答と解説

じゅぎょう ほうほう
 授業の方法

テキスト、パワーポイントを使用した講義及び DVD の視聴

きょうざい
 教材

テキスト、DVD

ひょうか ほうほう
 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
 授業外での学習方法

身近な動物園や水族館へ行き、授業内容を深める

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
 実務経験と授業科目の関係

動物園副園長及び動物園獣医師としての実務経験を踏まえて授業を行う

博物館学

(授業概要)

博物館や博物館相当施設、博物館類似施設等での仕事を行う上で必要な知識を身に付けるため、まず博物館の定義や種類等について学習する。また、博物館資料や展示物等についての知識も習得する。さらに、博物館等で働くことを想定した模擬練習を通じ、博物館資料や展示物を第三者に説明できるようになる。

か 科	生命科学科	きょういん 教員	西中
コース	A	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

1 学期

博物館の種類や特徴について説明できる。
博物館の資料について説明できる。
博物館における調査研究や資料について説明できる。

2 学期

常設・特別展示について説明できる。
博物館類似施設について説明できる。
博物館の展示物について、第三者に紹介する技術を身に付ける。

授業計画

1 学期

- 1回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2回 博物館とは何か？
- 3回 博物館の名称
- 4回 国際博物館会議（ICOM）について
- 5回 博物館法の課題と展望
- 6回 博物館の運営①
- 7回 博物館の運営②
- 8回 連携・ネットワーク活動①
- 9回 連携・ネットワーク活動②
- 10回 博物館資料について①
- 11回 博物館資料について②
- 12回 博物館における調査研究
- 13回 博物館における資料保存

2学期

- 14回 試験対策
- 15回 前期試験
- 16回 試験フィードバック
- 17回 博物館等の見学体験紹介①
- 18回 博物館等の見学体験紹介②
- 19回 博物館等の見学体験紹介③
- 20回 危機管理計画
- 21回 常設展示について
- 22回 特別展示について
- 23回 教育の場としての博物館
- 24回 博物館の「観る技術」
- 25回 近畿地方の博物館について
- 26回 日本の生物系施設紹介①
- 27回 日本の生物系施設紹介②
- 28回 企業ミュージアム①
- 29回 企業ミュージアム②
- 30回 冬季課題発表①
- 31回 冬季課題発表②
- 32回 試験対策
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験フィードバック
- 35回 まとめ

授業の方法

講義、グループワーク

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

期末試験80%、授業態度・出席率20%

授業外での学習方法

授業で学んだことを復習することに加え、興味のある博物館や博物館相当施設、類似施設等を積極的に見学し、その展示方法について学習する。

じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

箕面公園昆虫館 元スタッフ。万博記念公園 自然観察学習館 元指導員。